

# Economic Indicators

発表日: 2023年11月30日(木)

## 鉱工業生産(2023年10月)

～生産は一進一退も、電子部品・デバイスに底入れの兆し～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

	鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財		
	生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
22年	1月	▲0.8	▲0.7	▲0.9	▲1.8	▲0.5	5.9	1.3	6.4	1.5	7.7	▲1.0	▲5.0
	2月	1.3	0.0	0.6	▲1.9	1.8	8.6	0.5	8.7	▲2.2	1.1	0.5	▲3.6
	3月	▲0.3	▲1.6	0.7	▲2.7	▲0.4	7.9	▲0.1	10.0	0.4	5.9	▲0.5	▲5.6
	4月	▲0.4	▲4.7	0.3	▲4.6	▲3.5	4.4	▲1.6	8.0	2.2	▲0.6	0.7	▲5.6
	5月	▲4.4	▲2.7	▲3.8	▲3.3	0.5	4.5	3.4	8.5	0.1	2.2	▲1.0	▲3.4
	6月	5.0	▲3.0	3.2	▲3.3	1.5	4.7	▲0.7	8.6	2.3	2.6	1.4	▲3.2
	7月	0.6	▲1.8	0.7	▲2.1	0.7	5.1	1.4	10.4	4.5	9.6	1.1	▲1.5
	8月	1.4	5.7	0.8	5.5	1.1	6.2	▲0.3	4.9	5.8	18.8	▲0.5	8.9
	9月	▲0.5	8.7	▲0.7	9.6	1.7	6.2	2.8	5.0	▲5.4	13.4	▲0.3	18.0
	10月	▲1.7	3.1	▲0.6	4.7	▲0.2	5.0	▲1.5	3.7	▲1.7	10.6	1.5	7.2
	11月	0.0	▲1.4	▲0.4	▲0.8	0.0	3.5	1.3	6.6	▲3.9	2.5	▲0.9	1.9
	12月	▲0.6	▲2.2	▲1.2	▲3.1	▲0.1	2.7	2.2	10.5	2.7	3.9	0.2	0.0
23年	1月	▲3.9	▲2.8	▲3.2	▲2.9	▲0.7	2.4	2.0	9.6	▲10.6	▲5.2	▲2.5	1.2
	2月	3.7	▲0.6	4.3	0.7	1.0	1.6	▲1.6	5.9	7.2	2.2	4.9	4.1
	3月	0.3	▲0.8	0.9	0.0	0.4	2.3	1.3	8.8	▲1.8	▲0.1	0.8	5.5
	4月	0.7	▲0.7	▲0.2	▲1.3	▲0.1	6.0	1.8	12.5	1.1	▲2.9	0.7	3.9
	5月	▲2.2	4.2	▲1.1	4.0	1.8	7.3	1.5	8.8	2.6	3.0	1.6	9.9
	6月	2.4	0.0	1.6	0.8	0.2	5.9	▲0.8	10.3	▲0.6	▲1.5	▲1.6	5.0
	7月	▲1.8	▲2.3	▲1.8	▲1.7	0.6	5.7	1.0	9.8	▲4.6	▲10.2	▲0.6	3.2
	8月	▲0.7	▲4.4	▲0.3	▲2.8	▲1.3	3.2	▲1.0	9.1	1.5	▲13.8	▲2.1	1.5
	9月	0.5	▲4.4	0.6	▲2.3	▲1.3	0.2	▲1.7	4.4	▲3.0	▲13.1	1.9	2.2
	10月	1.0	0.9	0.2	1.0	0.8	1.2	0.1	4.6	2.6	▲6.2	2.6	6.5
	11月	▲1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12月	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)23年11月、12月は、製造工業生産予測調査の数値

### ○10月の生産は2か月連続の増産

経済産業省から公表された23年10月の鉱工業生産は前月比+1.0%となり、2か月連続の上昇となった。ほぼ経済産業省の予測指数補正值(前月比+1.1%)や事前の市場予想(前月比+0.8%)どおりの結果となった。業種別にみると、業務用機械(前月比▲7.4%、前月比寄与度▲0.12%pt)や石油・石炭製品(前月比▲2.7%、前月比寄与度▲0.05%pt)が低下した一方で、電子部品・デバイス(前月比+6.6%、前月比寄与度+0.35%pt)や自動車を含む輸送機械(前月比+1.9%、前月比寄与度+0.32%pt)等が上昇した。

部品等の供給制約の緩和により生産を牽引している輸送機械については、10月は自動車メーカーの工場における稼働停止トラブルにより下振れが懸念されたものの、2か月連続での増産となり、足元でも持ち直し基調を維持した。同時に公表された予測指数では、11月に前月比0.0%の横ばい、12月に同+3.5%は増加が見込まれており、7-9月期に前期比▲2.5%の落ち込みは取り戻しそうな計画だが、自動車の持ち直しペースは鈍化しつつある。

一方、電子部品・デバイスは、グローバルなIT需要の調整を受け22年から低下が続いてきたが、

10月は前月比+6.6%もの上昇となり、足元で底打ちがみられるようになってきた。在庫水準も低下傾向が明確化しており、在庫調整は概ね終了したとみられる。電子部品・デバイスの予測指数は11月が前月比▲1.3%、12月が同+1.9%と一進一退だが、このところの予測修正率はプラスが続いていることを踏まえれば（11月予測修正率：+3.8%）、予測を上振れる可能性もあるだろう。IT部門が持ち直し傾向に転じれば、先行きの生産の下支え要因として期待される。

### ○10-12月期も生産は停滞感が強い

同時に公表された製造工業予測指数は、11月が前月比+3.9%、12月が同▲2.8%となった。ただし、予測指数には上振れバイアスがあり、このバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、11月は同+1.1%の上昇が見込まれることとなる。仮に11月が経産省試算値通り、12月は予測指数通りとして先延ばしすると、10-12月期は前期比+0.3%と小幅の増加に留まることとなる。7-9月期に同▲1.2%の落ち込みを取り戻すには至らず、鉱工業生産の停滞感は強い。

先行きについては、上述の通り電子部品・デバイスの持ち直しへ転化が期待されるものの、海外製造業部門の景況感悪化や中国経済の低迷が続いていることで輸出は低迷しており、生産への下押し圧力も当面続くとみられる。国内の財消費も伸び悩む中で、鉱工業生産は一進一退の動きが続く可能性が高いだろう。

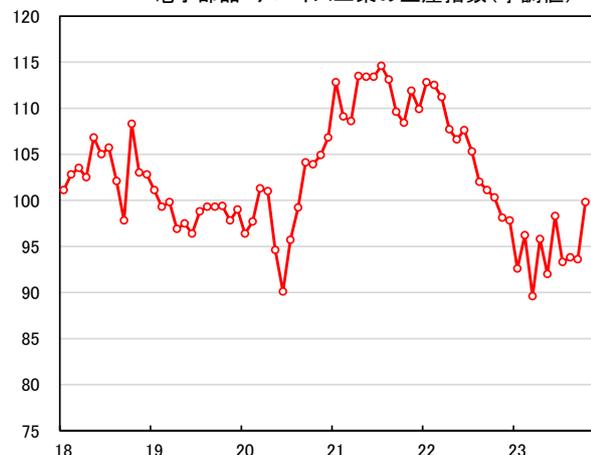
(20年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



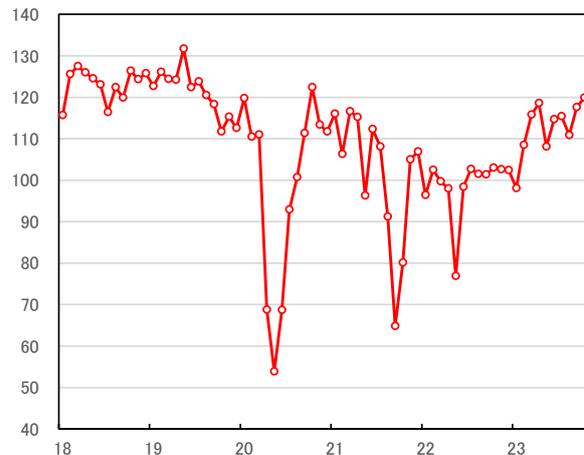
(20年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(20年=100) 自動車工業の生産指数(季調値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。